自由民主党総裁　石破 茂様
参議院議員　　　西田昌司様

沖縄戦の史実をゆがめる 自民党西田昌司参院議員の暴言に抗議します

2025 年 5 月 12 日
新日本婦人の会　京都府本部
会長　　澤田 季江

自民党の西田昌司参議院議員が、憲法記念日に那覇市で開かれた改憲派の憲法シンポジウムで、「ひめゆりの塔」の説明を「歴史の書き換え」などと発言したことに、同氏の選挙区である京都の女性団体として、怒りをこめて抗議します。

西田氏は、ひめゆりの塔の説明について、「日本軍がどんどん入って来て、ひめゆり（学徒）の隊が死ぬことになった。そしてアメリカが入ってきて沖縄は解放された、そういう文脈で書いている。亡くなった方々は救われない。歴史を書き換えられると、こういうことになる」と述べています。しかし、ひめゆり平和祈念資料館の展示内容にはそうした記述はありません。事実をねじ曲げて、沖縄戦の犠牲者や遺族、県民を傷つけ愚弄する発言は国会議員として許されるものではありません。

さらに、西田氏は、「沖縄の場合は、地上戦の解釈も含めて、かなりめちゃくちゃな教育のされ方をしている」「自分たちが納得できる歴史」をつくるべきだと述べていることは、歴史修正主義そのものであり看過できません。

地上戦で県民の４人に１人の多大な犠牲者を出した沖縄では、戦争を二度と繰り返さないという県民の決意と、「軍隊は住民を守らない」という教訓をふまえて、体験者の証言や沖縄戦の研究に基づいた平和教育を積み重ねてきました。沖縄戦の史実を歪め、日本軍を美化するように「歴史の書き換え」をしようとしているのは、西田氏の方です。

今回の暴言に沖縄でも京都でも怒りと批判の声が上がり、当初は「撤回しない」と強弁していた西田氏も、ひめゆりの塔については「不適切だった」と“謝罪”しました。同時に、「自分の言っていることは事実だという前提でいまも話している。問題は、事実（かどうか）ではなく、県民の感情をわかっていなかったことだ」として、沖縄の教育にふれた発言は、謝罪も撤回もしないと開き直っています。こうした不誠実な態度に沖縄県民からは「これでは謝罪どころか加害の上塗りだ」という批判の声がさらに広がっています。

沖縄戦では京都出身の兵士も犠牲となりました。沖縄戦の激戦地となった嘉数の高台には、2530 人の京都出身兵を悼む「京都の塔」があります。また、京都府内には修学旅行で沖縄を訪れる中学・高校も多く、子どもたちは、沖縄の歴史と文化にふれ、「命どう宝」の言葉とともに平和の大切さを学んでいます。このように府民が草の根で大切に築いてきた京都と沖縄の平和の架け橋を、西田氏の発言は土足で踏みにじるものです。

あらためて西田氏の暴言に抗議し、猛省を促すとともに、誠実で真摯な謝罪を求めます。